

# ときめき人

Tokimeki bito

## 障がいがあってもなくても 地域を奏でる人に



就労支援事業所「かなみのもり」  
スタッフとメンバーの皆さん。  
後列右が「奏海の杜」代表理事の  
太齋京子さん



奏海の杜  
ホームページ

光が差し込む明るい店内。働く人たちの笑顔に癒やされ、ゆっくりとくつろげる小さなブックカフェが、就労支援事業所「かなみのもり」にオープンした。コーヒーなどを提供する他、地域の素材を使った草木染なども販売。障がい者の就労経験の場、地域住民との交流の場となっている。

運営する奏海の杜(太齋京子代表)は2011年、障がい児への支援活動を始めたことをきっかけに発足。活動の場を広げながら、地域の人たちとの交流を深めていった。子どもたちの家族から「障がいがあっても地域と関わりながら働き、仲間を見つけられる場所を」という思いを受け、21年には登米町寺池に「交ゆう館かなみ」を建設。子ども広場とともに、大人支援の就労継続支援B型事業所を

開所し、仕事や学びの支援活動を展開している。事業所スタッフの及川由梨さんは「ここでは、利用者を親しみを込めて『メンバー』と呼びます。カフェを始めてから、緊張に震えながらも自分から思いを発信したり、相手の気持ちになって考え行動したり、ステップアップしていくメンバーの姿に日々感動しています」と目を細めた。

「カフェは現在、週2日の営業ですが、今後はイベントなども開催し、誰もが気軽に立ち寄れる、地域に愛される場所にしていきたい」と話す代表の太齋さん。「障がいの有無にかかわらず、互いができる範囲で支え合い、誰もが主体的に生きられる地域を目指し、活動を続けていきます」かなみのもりは、地域と共に生きる居場所を育てている。

## 編集後記

▼近年はライフスタイルの多様化などにより、食事への手間をかけず短時間で済ませる傾向にあります。そのため、出来合いの購入が多くなり、自分の好みの食品に偏りがちに。11月は県の食育推進月間。日頃の栄養バランスの乱れを見つめなおす機会にしようと思えます。(佐々木)

▼取材を通して目にした市内中高生の躍動する姿。スポーツ、文化ともに目標に突き進む熱意を感じる事ができました。また、水害を乗り越え、公演を迎えることができたドリム☆キッズの団員たち。本番での堂々とした演技や公演終了後の団員たちの笑顔は輝いていました。(白石)

▼取材した人や団体などのSNSは必ずフォローし閲覧するようにしています。皆さんの情報発信力の高さに脱帽。見習わなくてはと感じます。今回のときめき人「かなみのもり」も日々の活動の様子を投稿していくので、毎回更新されるのが楽しみです。(渡邊)



### 登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomemiyagi.jp/>



### 登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

